

第319回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成27年6月22日(月)午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 9人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
春日 貴光	委員	碓井 真史	委員
原田 健一	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	室川 治久
取締役編成局長 兼 番組審議会事務局長	須佐 博樹
取締役(報道・制作・国際担当)	平野 真一
執行役員報道制作局長	稲田 裕之
報道制作局次長兼制作部長	小木 裕介
報道制作局 合評番組プロデューサー	竹野 和治

事務局	増子 隆	水野 明子
-----	------	-------

4 議 題

1) 番組合評

「NNNドキュメント ‘15

あいつは、ミナだ 差別と闘い 新潟水俣病50年」

[放送：5月31日（日）24:55-25:25]

(説明：番組プロデューサー 竹野 和治)

2) 会社報告

①5月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

②講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、新潟水俣病の被害者に対する差別と偏見という問題を社として初めて真正面から取り上げ、新潟水俣病が公式確認された日から、ちょうど50年目にあたる5月31日に、この番組を放送することによって、この問題が半世紀に渡り解決していない現状を訴えたかったという説明があった。

- 地元局らしい視点から踏み込んだ取り上げ方をしており、タイトルも衝撃的でインパクトあるものだった。
- 未解決の問題を抱えながらも、日常生活をたくましく生きている被害者の姿を感じさせる場面もほしかった。
- 30分番組の中に公害病としての苦しみと差別による苦しみ

の2つの側面が表現されており、わかりやすく、また見ている側に様々なことを考えさせてくれる番組だった。

- 他の差別問題と同じような構造が公害病にもあることがよくわかった。解決は難しい問題だが、番組で継続的に取り上げていくことが大切だと感じた。
- 目で見てわかりやすい症状の方だけでなく、わかりにくい症状の方の苦しみを表現することも、認定との絡みで難しいだろうが、重要だと思う。また、これも表現が難しいが、差別の加害者の問題も、是非取り扱ってほしい。
- 「こんなことを被害者にやってしまうのか」という人間の心の問題の恐ろしさが伝わってきた。
- 福島原発問題にもあるように、被害者とお金にまつわる問題は常に起こっていて、このような問題についてきちっと考えていかないと、偏見・差別・中傷はなくならないと思う。
- 被害者たちのこれまでの気持ちがうまく描かれていた。番組の構成も硬派なものであることを念頭に、非常に冷静に淡々と伝えていた。その一方で、衝撃的な映像も入っていて、淡々と伝えながらもインパクトがあった。
- 「私たちは何も悪いことはしていない」という被害者の訴えを聞くと、何もしていないのに家族までもが差別を受けてしまうような社会をきちんとしてゆく必要があり、それが放送の役目であろうと思った。
- わかりやすく時系列でよくまとめてあった。また、カメラが被害者をよく捉えていた。このような映像で今の人達に訴えていかなければいけないし、苦しんでいる人たちにも何かしら応えていかなければいけない。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

5月 …… 138件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成27年5月25日)から昨日(平成27年6月21日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第318回審議会では、「コメサイバル ～“新品种”で未来をつかめ～」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第319回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・5月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(5/23、6/3、13号)

以上